

## 「観光立国」を目指す日本の課題は？

現在、私は南スペインのマラガ大学に「定年留学」している。目的はスペイン語の勉強だが、歴史、芸術、文学等の文化コースもある。その中に、いかにもスペインらしい科目に「観光概論」がある。

スペインは世界有数の観光立国。その国を訪れる外国人の数では、フランス、アメリカについて世界第3位。2001年の統計によれば、スペインを訪れた観光客4800万人は、国の人口4000万人を超えている。

なぜ、スペインか？観光産業の発展にはさまざまな要素があるが、まずは治安、気候、観光資源、交通手段、宿泊・飲食施設、値段の安さ、そして外国語への対応の便があること等が上げられる。

スペインはこれらのほぼすべてを備えている。日本も世界に冠たる治安の良さ、美しい四季、豊かな歴史と遺産、新幹線等の交通手段、多様な宿泊施設、ヘルシーな日本食と外国人にとって魅力的な要素がいっぱい揃っている。問題は残りの二つ、物価の高さと外国語への対応である。

海外では一般に、ホテルは一部屋いくらの料金なのに、日本では一人いくらとして計算される。一時帰国等で夫婦で日本のホテルに泊まると「エッ どうして？」と二人分の料金の請求に驚かされる。

言葉の面では大変に遅れている。スペインの観光バスのガイドはたいがい3ヶ国語以上をあやつる。母国語のほかに英語、フランス語、ドイツ語といった具合である。バス内では同じ説明を例えば3言語に分けて、また観光地では言語別グループに分けて案内する。

大都市の市内観光バスには、座席にイヤホンが付いていて8ヶ国語ほどで説明が聞ける。



日本の国旗の絵もある観光バス

車体にはその国の国旗の絵が描かれていてわかりやすい。スペインを訪れる日本人も多いことから「日の丸」もある。この1月、私の兄弟がこちらを訪れたとき、「日本語でガイドが聞ける」このシステムに感嘆の声をあげていた。

これに比べると、日本は英語だけでさえも十分ではないように思える。先ごろの統計では、海外を訪れた日本人が年間1500万人を超えているのに対し、日本を訪れた外国人は約500万人、三分の一に過ぎない。世界的にも観光はこれからの重要産業。日本は近隣のアジア諸国の言語を含めた外国語への対応を早急に迫られているような気がする。